

SHIMIN PHOTO

市民フォト

KAGOSHIMA

鹿児島



NO.101

平成17年7月1日発行

屋外のオブジェ

Outdoor Objet



【三つの玉】

～呉服町（三越鹿児島店前）～

CONTENTS

【特集】かごしまの山を遊ぶ

クローズアップ

櫻美穂さん

学校探訪

喜入中学校

カメラトピックス

.....

ハロー鹿児島

アルダバース・マヘルマーさん

私の好きな場所

橋口歌裕さん

ふるさと再発見～文化財編～

島津義弘蟄居跡

あなたのフォトサロン

中央写友会

よかタイム

隈元秀治さん

街角ウォッチング

桜島港周辺

わが家の味じまん

谷口さんファミリー

館のたからもの

ふるさと考古歴史館

わが町上空

中心市街地

30

29

28

27

26

24

22

20

18

16

14

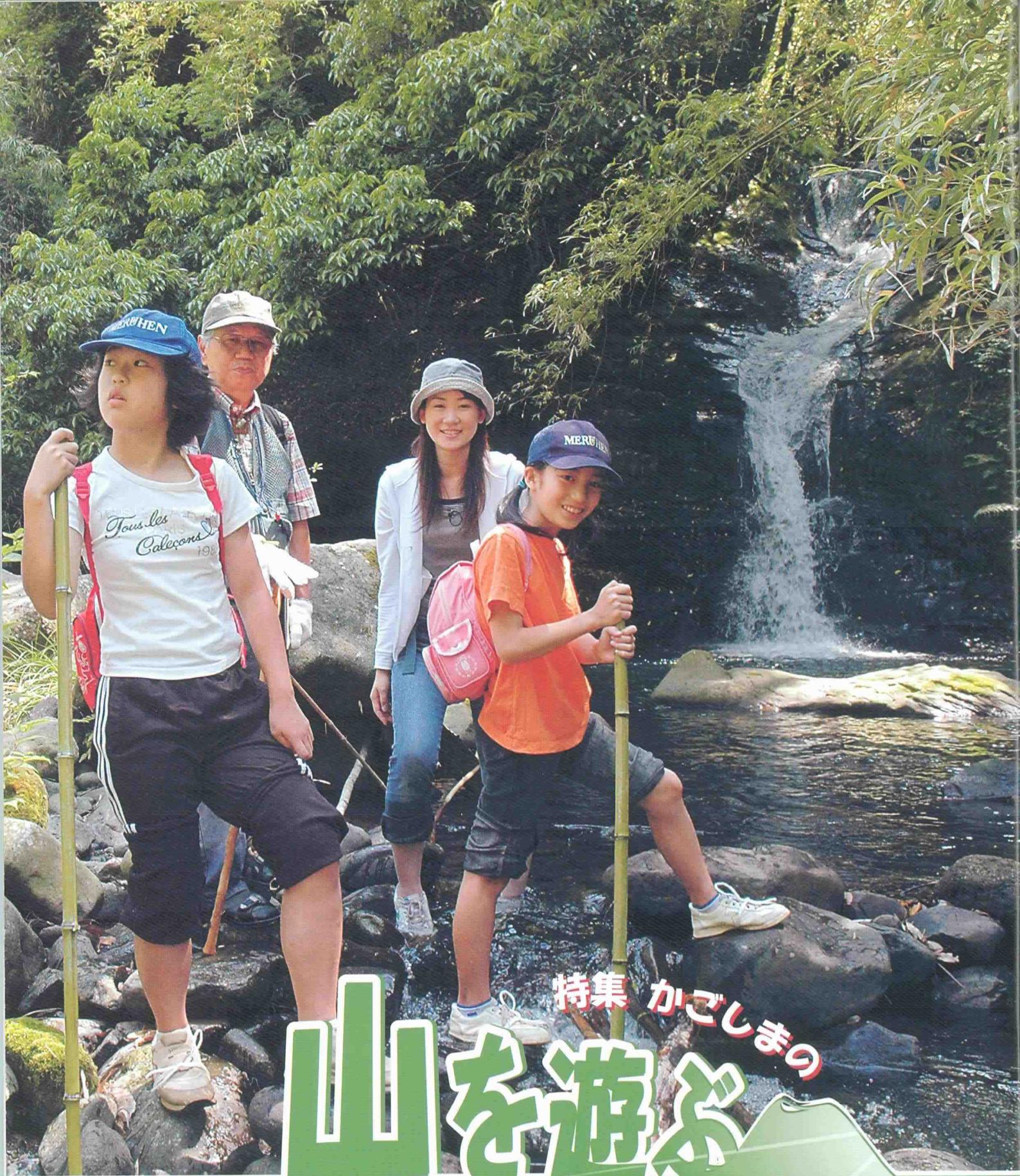
12

3

★表紙写真説明

涼を求めて立ち寄ったソーメン流し。
心地よいそよ風の中、はしも進みます。

（慈眼寺公園）



特集 かごしまの
山を遊ぶ

合併によってさらに自然が広がった鹿児島市。
海、山とも遊びのフィールドがいっぱいです。
身近な山で自然を満喫している人がいます。
さっそく訪ねてみました。

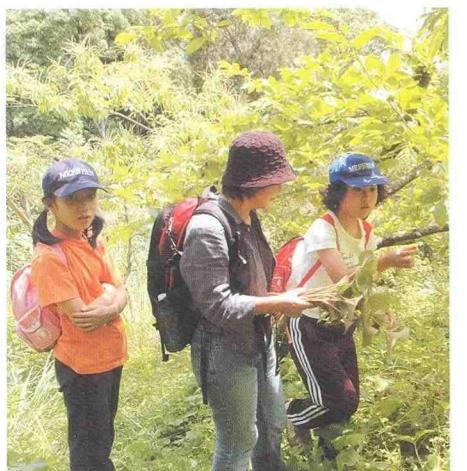


眺めのよい所でほっと一息

里山の探訪は自然との出会い



内田さんが「郡山でもこの場所が一番好き」という、甲突川本流



自然の恵みをいただくのも楽しみのひとつ



郡山での「里山探訪は8・6水害の

現地調査がきっかけ」と内田さん。山里の恵みの源だつた甲突川が一瞬のうちににはんらんして流域を荒らし、人々の暮らしに大打撃をもたらした。その後、「川や海は森が育てる」という森の姿を見てみようという気持ちになつた。

詳しい地図はなく、車の通れない道の行き先はほとんど分からず、道なき道を進むのは、きつくるもあるが、探検気分で楽しい。「眺めのいいところで食べるおにぎりは最高にうまい。多くの人に山へ足を運んでもらい、山に興味を持つてもらいたい」と話した。

里山とは、集落の近くにあり、かつては薪や炭にした木材、山菜などを採取していた、人と関わりの深い森林のこと。

森の姿を調査、自然を楽しむことを目的に月1回、約40人が集まり郡山を歩く。

主催者の一人、内田健治さんは「子どもたちにもたくさんきてもらいたい。わたしたちが小さいころ自然の中で遊んだ体験をしてもらい、自然大事にするという気持ちを伝えたい」と話す。

美しい森が生命の水をはぐくむ



鳥のさえずりが聞こえる



毎月、探鳥会を行い、多くの人が野鳥を探す



望遠鏡やカメラで鳥の表情を見守る関さん

市街地の喧騒を少しはずれると、樹木が生い茂り、鳥のさえずりが聞こえてくる。谷山・慈眼寺公園。ここでバードウォッチングを楽しんでいるのは関宰さん。(財)日本野鳥の会鹿児島県支部の副会長も務めている。

関さんは、「暇があればここにきて鳥を見て心を和ませる。「家にいるより鳥を見ていると元気がでてストレスがなくなります」と関さん。

初めて佐多岬にサシバの渡りを見に行つたとき、自然の素晴らしさに感動。それからバードウォッチング

市街地の喧騒を少しはずれると、樹木が生い茂り、鳥のさえずりが聞こえてくる。谷山・慈眼寺公園。ここでバードウォッチングを楽しんでいるのは関宰さん。(財)日本野鳥の会鹿児島県支部の副会長も務めている。

関さんは、「暇があればここにきて鳥を見て心を和ませる。「家にいるより鳥を見ていると元気がでてストレスがなくなります」と関さん。

初めて佐多岬にサシバの渡りを見に行つたとき、自然の素晴らしさに感動。それからバードウォッチング

自然の素晴らしさに感動

鳥だけでなくほかのバードウォッチャーとの出会いも楽しみ。鳥を通して人情に触れ合える。鳥のいる山に行くとき、カメラやレンズを背負うと、重い時は10kgくらいになることも。それでも「大変だと思ったことはない。早く鳥を見たいとの一心で知らず知らず早歩きになってしまいります」と。珍しい鳥を見つけたときのうれしさは格別。

肉眼で見るのもいいけど、双眼鏡で見ると鳥の表情や羽毛の美しさを実感できる。

「この野鳥の住む環境、自然を大事にして守っていただきたい」と、自然環境にも関心を持っている。



市街地付近で見ることのできる鳥たち



アオジ



シジュウカラ



サンショウウクイ



エナガ



アオサギ



カワセミ



ヤマガラ

撮影：関 宰さん



ここは最初は竹やぶだった



これからの計画に話がはずむ



みんなで作った大人の隠れ家

試行錯誤しながら力を
合わせて作った堅穴式住居



「自分で好きな時間にきて、作業後の休憩がなんとも心地よい。雨が降つたら雨音を聞きながら過ごすんですよ」と濱田さん。

今では近くの小学校や保育園の子どもたちが遊びにくることもある。

「狂言の舞台、バンガロー、木の上のやぐらなど、自分たちが楽しめる施設を造っていきたい」と、これから計画は尽きない。

そして堅穴式住居は今年春に完成。造るために上野原遺跡やほかの施設を何回も見に行つて勉強したそうだ。街の近くにありながら、静かなところ。夏でも涼しい風が吹き抜けていく。水道も電気もいらない。時間を忘れてみんな思い思いの時間を過ごしている。

川上町を通る県道から、車がやつと通れる道に入る。うつそうとした森の中にあり、舗装された道からは何も見えない手作りの小屋。

そこで除草作業をしていた池田真一さんとその友人たち。

「ここは自分たちの憩いの場所として、開拓していくた場所」。空いた時間があれば仲間たちがやってくる。

「開墾し始めてから3年目。最初はすごい竹やぶだったんですよ」と池田さん。まずは手作業で竹の伐採、道づくりから始まった。雑木を取り除き、休憩所兼物置を造った。

山村遊学を満喫



鹿児島市の キャンプ場



「いつかオーストラリアの大平原でキャンプをしてみたい」。夢は世界に広がっている。



今年で30周年を迎える市立少年自然の家。そこで子どもたちに野外活動の魅力を教えているのが、吉國三宝さん。「集団生活の野外活動を通して、他人への思いやりやキャンプの楽しみを感じてくれたら」と話す。吉國さん自身、プライベートでキャンプを楽しんでいる。魅力は「非日常なこと」。キャンプ地ではハンモックに揺られながら、昼からゆっくりしていたくな時間の過ごしがたまらない。家での準備の段階からワクワクし、子どもたちも手伝ってくれるそうだ。

キャンプといえば、飯ごうで炊くご飯。凝った料理をワイルドに作ることもあるが、子どもたちにはカレーが定番。朝はホットケーキを焼く。

夏には子どもたちは朝早く起きて、カブトムシ捕りに行く。川があれば水浴び。「自然にあるもので楽しむのがいい」と吉國さん。

**キャンプは
準備から
楽しい**

Close Up

クローズアップ

櫻 美穂 さん

略歴
昭和56年生まれ。本名 加藤 美緒。
鹿児島短期大学音楽科声楽専攻。
平成16年、第20回日本アマチュアシャンソンコンクール全国大会で最優秀歌唱賞を受賞。



普段は、23歳のかわいい女の子と印象の櫻美穂さん。表情豊かに、感情を込めて歌う姿は、その印象が大きく変わる。圧倒的な存在感。聞いているとすぐに歌の世界に引き込まれてしまう。

初めてのコンクール出場で頂点に

昨年6月、歌の先生から出場を勧められ、「大きなステージに立つてみたい」と思って出場した第20回日本ア

マチュアシャンソンコンクール。プロへの登竜門といわれるこのコンクールで、最高賞にあたる最優秀歌唱賞を受賞した。

櫻さんにとって、大勢の観客の前で歌うのは初めての経験。「頑張ってきたことを出せたらいいと、自分を出し切ることで精いっぱいでした」と振り返る。

いつも身近だった音楽

小さいころからピアノを習つたり、

合唱団で歌つたり。いつも音楽が身近にあつた。母親はシャンソン歌手で、ライブハウスを経営している。「母の背中を見て育つた、という感じですね」。20歳から、母のライブハウスで歌う。親子でデュエットすることもある。「けんかしても、妙に息が合う。声質は違うのに、うまくかみ合うんです。親子だなあと思いますね」と笑う。

シャンソンを歌い始めたのは、2年ほど前。人生の喜び、悲しみを歌

うシャンソンでは、詩がとても大切という。「歌うときは、詩を理解しないと思いを伝えることができません。詩からいろんな状況を想像したり、自分と置き換えてみたりして、読み込みます。なかには理解できないものもあつて、シャンソンの奥の深さを感じます」。

目指すのは飾らない自分で歌うこと

高校生のときは、家族全員に勧められて空手道部に入つていた。厳しい練習を乗り越えたおかげで、「つらいことがあつても、このくらいなら」と思えるそうだ。

代々継がれて
いくようないい歌を
歌つていきたい

受賞をきっかけに新聞やテレビの取材を受ける機会が急に増えた。活躍の場が広がっている状況に、「戸惑いはある。でも、今は歌を勉強して、飾らない自分、これが自分という状態で歌えるようになりたい」。

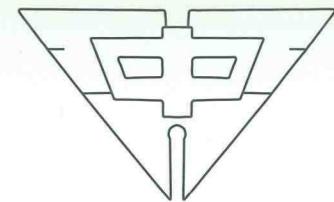
歌で表現できる喜び

「いろんなジャンルの代々継がれていくようないい歌を歌つていきたい」と語る櫻さん。今、練習しているのは、カンツォーネの「ディオコメティアーモ」愛は限りなく」。「あなたがすべて、いつこの幸せがなくなるのが怖いという、すごい愛の歌。歌い上げる感じの歌で、音域も広い。高い音は、気持ちで勢いづけると歌えるかなと思うけど、気持ちを持つていてくまでが難しい」。歌を自分のものにしようと模索中といった様子。目を輝かせて生き生きと話してくれる。「言葉では伝えられない思いを歌で表現することができます」という櫻さん。「好きな歌に正面から向き合い、ひたむきに取り組んでいる」。

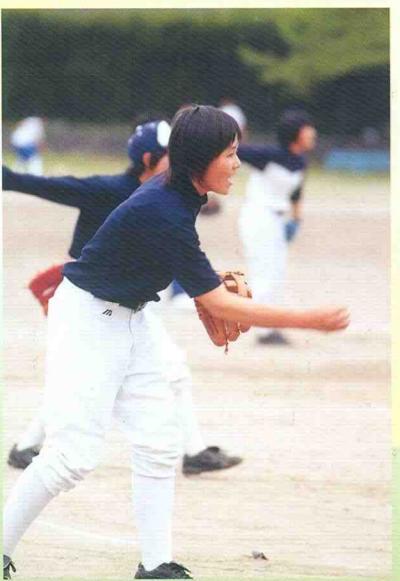




創立 昭和22年5月2日 生徒数 436人 (平成17年6月1日現在)



喜入中学校



立身
世界に直接触れるALTの授業と大好きなことなど打ち込める部活動。
自信と誇りに満ちた文武両道の校風を目指す。



市内で最も南に位置し、喜入地域では唯一の中学校。生徒の多くが列車通学。

通学



5月28日
市民と知事・市長との意見交換会
第1回目は郡山中央構造改善センターで行われ、約300人が参加し意見を交わしました。



5月31日 鹿児島市名誉市民授与式
市長を5期20年務めた赤崎義則氏への名誉市民授与式が市民文化ホールで行われ、約1900人が参加しました。



5月下旬
ハナショウブ(平川動物公園)



5月11日
椋鳩十児童文学賞授賞式
市内のホテルで行われ、やえがしなおごさんの作品「雪の林」に賞が贈されました。



5月15日
第15回畜産フェスタ
家畜の品評会などさまざまなイベントが、都市農業センターで行われました。



5月22日
第8回渋谷・鹿児島おはら祭
道玄坂と文化村通りでは、森市長や伊藤知事も踊り連に参加。沿道は多くの見物客でぎわいました。



4月26日
桜島海づり公園オープン
天然の魚礁に恵まれ、カサゴ、アジなどが釣れます。土日には多くの釣り人が訪れます。

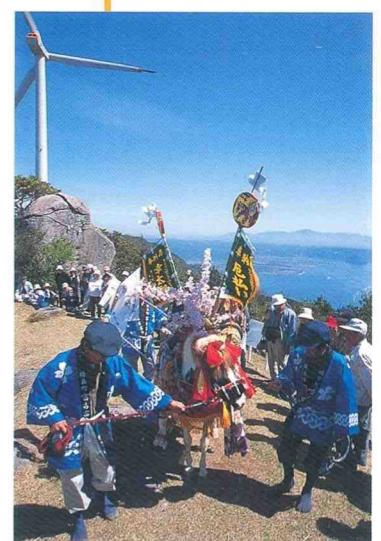


5月3日
松元地域 素人手もみ茶教室

松元平野岡運動場内「茶山房」^(さざんぼう)で行われ、約70人が参加。汗だくになりながら茶作りに励みました。



5月10日 防災点検
梅雨の時期を前に、市街地と桜島で防災点検を行いました。



4月15日 牧神様祭り
牟礼ヶ丘山頂で行われる伝統行事で、集落の人々が馬牛の無病息災などを祈りました。



4月下旬
せんがんびら
ツツジ(千貫平自然公園)



4月25日 ドルフィンポート開業
本港新町のウォーターフロントに、大型商業施設「ドルフィンポート」がオープンし、連日多くの人にぎわっています。



マヘルさんの子ども、左からイブラヒムくん、リームちゃん、アハマドくん。リームちゃんは、市立病院生まれ。

アラブ人のよりどころ
マヘルさんは、2年前の春、家族を連れて鹿児島にやつて来た。住んでいたのはヨルダン第3の都市ザルカ（人口約100万人）。石油精製所など多くの工場があり、鹿児島よりもぎやかだそうだ。首都アンマンからは車で15分ほどである。

鹿児島へは、アンマンからドバイ（アラブ首長国連邦の都市）、大阪と乗り継ぎ、13時間かかった。

家族は日本での生活に何の不安もなかつたという。「神様が見ていてくれます。問題ない」。アラブの宗教といえばイスラム教だ。「日本は嘘つく人、泥棒する人、あまりいない。人も社会もきれいです。でも宗教を持たない人が多い」。これだけが残念だという。

鹿児島の先生のもとへ

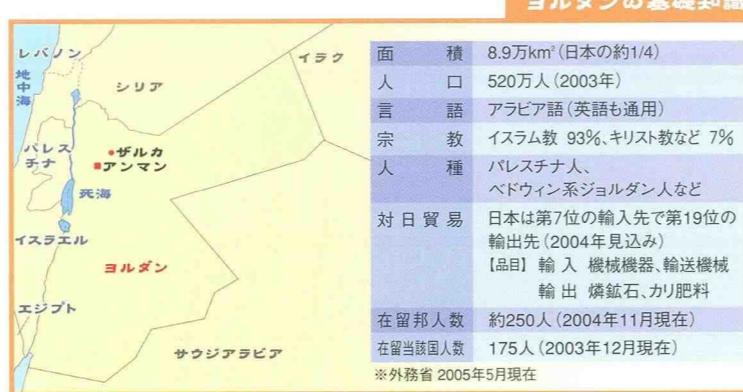
10年間ヨルダン大学で栄養食品科学を研究。同じ研究分野の先生が鹿児島大学にいることを知っていた。「私の国では留学が評価されるのはアメリカとイギリスだけ。奨学金はそこに留学する人しかもらえない」。ヨルダン大学の場合、留学先での仕事も認めていない。

日本大使館が募集する奨学金制度の枠は年に3~5人。毎年800人以上の応募があるという。この狭き門を見事通過したマヘルさん。いろいろ勉強になる。ヨルダンに戻つたら大学の先生になる。科学のほか、日本のよさも教えてみたい」。

ハラールフードを求めて
イスラム教では、酒と豚肉を口にできない。また、他の肉は正しい方法で屠殺（祈りの言葉をかけながらナイフを入れる）していると食べられない。食べ物に限らず使用できるものは「ハラール」と呼ばれ、ハラールマークが付く。日本では当然外食ができない。子どもの給食も断り、弁当を作る。「みりんにはアルコール、パンには豚の脂のショートニング。スナック菓子にはチキンが使われています」。日本人から見れば厳しい制限だが、「慣れてる。問題ない」と不自由なそぶりを見せない。

揺るがない自信の理由

ヨルダンにあつて日本にないものの。ハラールフードのほか、安い野菜。ヨルダンではトマト1キロは20円くらいだ。あと、イスラム教の寺院「モスク」。祈りを捧げ



【ヨルダン出身】
アルダバス・マヘル・マーモドさん

Hello
KAGOSHIMA



ここはかつての白梅たちの園 そしてわたしの再生の地

共研公園



鹿児島の陸の玄関口・鹿児島中央駅に程近い場所に、市民の憩いの場・共研公園があります。この地には、今からちょうど六十年前まで、わたしの母校・鹿児島市立女子興業学校（現在の鹿児島女子高等学校）がありました。

当時、この学校の校章の白梅と、制服のスカートのすそにある白線は、進学を志す女性のあこがれの的。わたしのような地方出身者にとつて狭き門で、入学したときは、天にも昇る気持ちでした。

礼儀作法に厳しい校風、素晴らしい教師や学友との出会い。授業の始まる前は黙想して先生の入室を待ちます。廊下を通る足音だけで、どの先生が歩いて来られるのか分かりました。わたしの担当は名簿係。今でも名簿の順番と名前を暗唱できます。同窓会で披露すると、みんな驚くとともに、懐かしいねと喜んでくれます。

昭和二十年三月卒業後、母校の事務職員として採用され喜んでいた矢先のあ



公園内の慰靈碑と記念碑

奇しくも翌日はわたしの誕生日。九死に一生を得たわたしは、あの日、この地で第二の生をいただいたという強い思いを持つようになりました。

昨年、公園の改装に合わせて、同窓会で慰靈碑を建立し、犠牲者への慰靈の言葉を述べたときは、運命のめぐり合わせに感無量の思いでした。

母校の校章は白梅、わたしの称号は飛梅司。つくづく梅と深い縁があるのかなと感じる今日このごろです。

母校の建学の精神「雪に耐えて梅花麗し」が心の支え。あの日、この地でいただいた生命を大事にして、好きな琴の道を弟子たちに弾き継いでいくことがわたしの使命であり、この地で亡くなった学友たちへの最善の供養だと思っています。

【取材メモ】

空襲で九死に一生を得、その後、琴の道を志して六十年。母校や後輩への深い愛情と、箏曲家としてのひたむきな姿勢を感じることができます。

穏やかな口調と、時折見せる凛とした表情に、白梅の花言葉『気品』を連想。これからも清らかな梅の花を咲かせ続けてほしいと思います。

の日、昭和二十年六月十七日の深夜。米軍機が市内一円に焼夷弾を落とし、職員宿舎や寄宿舎をはじめ学校の建物は全焼。わたしは防空壕にかろうじてたどり着き助かりましたが、学友十人が亡くなりました。

同級生が火だるまになつて亡くなるのを目の当たりにした忘ることのできない恐ろしい鹿児島大空襲の夜でした。

奇しくも翌日はわたしの誕生日。九死に一生を得たわたしは、あの日、この地で第二の生をいただいたという強い思いを

終戦後に習い始めたのが琴。親の反対を押し切り結婚したときも唯一の嫁入り道具でした。本当にあつという間の六十年。「人も楽しく、私も楽しく」が、琴を弾くときのわたしの信条。「自分が好きな芸事をして、人に喜んでもらえる。なんてありがたいことだろう」という感謝の念を、琴の調べにのせて、聞く人や場の雰囲気に合わせた演奏を心がけています。

母校の建学の精神「雪に耐えて梅花麗し」が心の支え。あの日、この地でいただいた生命を大事にして、好きな琴の道を

弟子たちに弾き継いでいくことがわたしの使命であり、この地で亡くなった学友たちへの最善の供養だと思っています。



箏曲家

橋口 歌裕さん

昭和2年、開聞町生まれ。鹿児島市立女子興業学校（現・鹿児島女子高等学校）卒。終戦直後に琴を習い始め、昭和63年に生田流筑紫会の最高称号「飛梅司大師範」の允許を受ける。また、郷土の伝統楽器、薩摩豊琴の復活と継承にも力を注ぐ。帰厚会（鹿児島女子高等学校同窓会）会長。本名はリツ子。

和の好きな場所
My favorite Place

島津 義弘 蟄居跡

ちつ きよ

文 鹿児島市文化財審議会委員
宮下 満郎

島津 義弘 像



(尚古集成館蔵)



所在地／桜島藤野町、市指定文化財(史跡)

家康に恭順の意を示した義弘

これらには滞在期間に関して詳しく記されている。

崎佐渡守広瀬が薩摩国に来たことから始まる。その後、広瀬は桜島に移住したと思われる。

義弘は関ヶ原の戦いで徳川家康率いる東軍に敗れ、歴史に名高い敵中突破の後、薩摩に逃げ帰った。

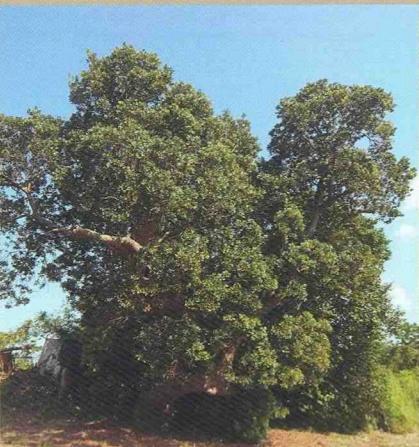
兄の第十六代義久の怒りをも買つた義弘は、桜島の藤野へ蟄居（家の中に閉じこもり外出しないこと）。家康に恭順の意を示した。

その後、義久の粘り強い外交交渉の結果、家康の怒りが解け、島津らされた義弘は、謹慎を解き、館之島（桜島）藤野村に届居して数ある帖佐に帰つたのである。

薩摩藩士の系譜を記した『諸家合戦記』では、「慶長六年四月隅州桜島藤野村に蟄居す、同年六月七日義弘帖佐の宅に帰る」とあり、

月を送る」とあり、「惟新公閔原御

藤崎家の庭には、義弘が植えたとされる大きな楊梅の木があり、屋敷門とともに往時をしのばせるたたずまいを見せていく。



藤崎家の大楊梅
やまらも

市指定文化財(天然記念物)

義弘とのつながり。それは島津義弘が同家に滞在したことにある。義弘は関ヶ原の戦いで徳川家康率いる東軍に敗れ、歴史に名高い敵中突破の後、薩摩に逃げ帰った。

義弘滞在時の藤崎家の当主、桜島郷士の正兵衛はその子孫である。義弘は慶長六年（一六〇一年）の夏、二カ月ほど滞在したと伝えられて

いる。「諸家大概」の成立は、関ヶ原の戦いから六十九年後であり、藤崎家滞在は世間によく知られること。家実であつたと考えられる。

また、藩の記録所が編さんした『義弘譜』には、「慶長六年四月、向島（桜島）藤野村に届居して数式をそのまま伝えていると考えられる。

このことから、當時から四百年を経過した現在の藤崎家の屋敷門が、義弘滞在中のものであつた可能性は低いが、江戸時代が格式を重んじた変化の少ない時代であつたことから、この門は当時の様式をそのまま伝えていると考えられる。

藤崎家の庭には、義弘が植えたとされる大きな楊梅の木があり、屋敷門とともに往時をしのばせるたたずまいを見せていく。

「鹿児島 夏 紀行」

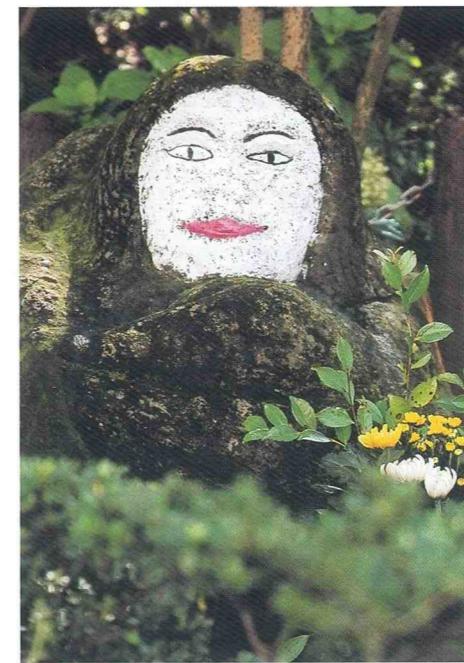
中央写友会



「浮遊」 松下 恵



「サマーナイト」 高山 雅子



「じめさま」 鶴田 直美



「風に乗り」 福迫 末光



「貝底橋となのはな号」 高山 博道



「出番待ち」 藤村 準子

どこにでもある竹が隈元さんの手の中で、いろいろなものに生まれ変わります。花に虚無僧、竹とんぼ、部屋の中の竹細工の多さに圧倒されました。



竹細工

隈元 秀治さん

趣のある
竹の色ですね

竹をそのまま使うわけではありません。沸騰したお湯にカセイソーダを入れ、竹を15分から20分ゆでます。

その後、みがき砂でやさしく油を取り、天日に20日ほど干すんです。

すると、竹は白くなり、その色をずっと保つんですよ。これを油抜きといいます。

カブトムシは模様が付いているんですね。

この模様は、ガスバーナー

で焼いたものなんですよ。

まず焦がしたくない部分に

銅板をしき、その周りにガス

バーナーで火を当てます。

その後銅板をはずし、境目をぼかすようにまた火を当てるんです。最後に、ニスを塗るのですが、このニスも1度ではつやが出ないので、3度は塗りますね。

今は何を作っているのですか

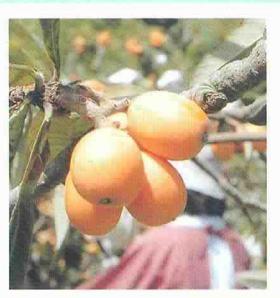
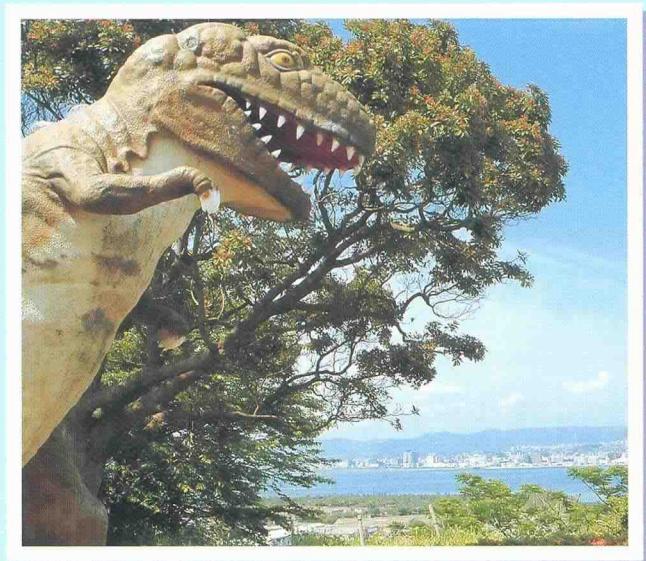
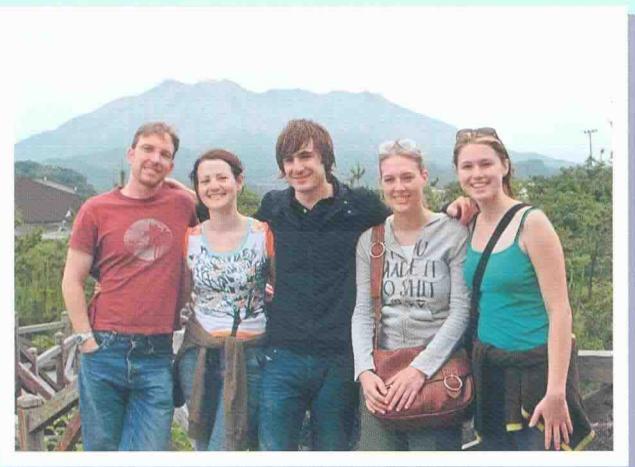
地域の夏祭りで子どもたちにあげるための風車やカブトムシを作っています。すごく喜んでくれますよ。夏の夜風が当たって回る風車で涼しさを感じてほしいですね。



右は隈元さんが考えだしたカブトクワガタ

街角ウォッチング

～桜島港周辺～



味在じまん



「レイシチャンブル」
「レイシサラダ」

谷口さんファミリー
[花尾町]

家庭の数だけ食卓があり、家庭の数だけ語らいがある。テーブルに広げられた自慢の料理は、家族の笑顔を演出する。
鹿児島市内におよそ26万世帯。一人から大家族まで食卓の風景はさまざま。わが家の味は家庭をどのように彩っているのだろうか。

「おばあちゃん、もう食べていい?」とれたてのレイシ料理を囲み、にぎやかに夕ごはんがはじまる。谷口さん夫妻は、郡山特産のレイシを生産して、関西地方を中心に出荷している。今年の収穫は、ハウス栽培のものが5月中旬から始まつた。7月になると、露地ものに変わり、10月ごろまで続く。

今の時期、達雄さんとハナエさんは、毎朝6時には畑へ出るので、夕食だけは、必ず家族そろつてとるようにしている。

孫の中学生の大輔くんと小学5年生の昭裕くん兄弟は今が食べ盛り。昭裕くんの好物は、レイシのサラダ。シャキッとしたレイシの歯ごたえにマヨネーズで味つけしたツナと玉ねぎがマッチした夏にピッタリの一品。レイシの苦味はほとんど感じない。

豆腐と豚肉がほんのり甘くまるやかなレイシチャンブル。味の決め

手は自家製みそ。大豆の食感がまだそのまま残っていて、なんだかやさしい味がする。

最近では、都会でもよく食べられるようになつたレイシ。ビタミンCをレモンの3倍含み、胃痛や解熱作用にも効果があるとか。今晚の食卓にのぼつたのが、谷口さん宅で最もよく食べるという二品。「あまん(お酢)で食べるのもさっぱりとおいしいよ」とハナエさん。ほかにも、おみそ汁やスパゲッティに入れたりと、料理の用途は多彩。

夏の日差しをいっぱいに浴びた栄養たっぷりのレイシと食卓に絶えることない笑い声が、一家の元気の源だ。

今回のレシピ



「レイシチャンブル」

1. 材料(4人分)

レイシ1本、豚肉100g、豆腐1丁、みそ大さじ2、砂糖大さじ2

2. 調理手順

- ①レイシを薄く切り、豚肉といっしょにいためる。
- ②濃いめに味付けし、水気をきっておいた豆腐をほぐしながら加える。



「レイシサラダ」

1. 材料(4人分)

レイシ1本、玉ねぎ1/2個、ツナ缶詰1缶、マヨネーズ適量

2. 調理手順

- ①レイシを薄く切り、サッとゆで、水気をきる。
- ②薄く切った玉ねぎと、ツナに①をあわせて、マヨネーズで味付ける。

ふるさと考古歴史館

「入れ子の縄文土器」



これは、今からおよそ4千年前の縄文時代の後半に使われた土器です。当時の人々にとって土器は、食べ物を煮炊きする生活の道具として、とても大切なものでした。

でも、よく見てください。大きな土器の中に小さな土器がすっぽり入っています。これは、「入れ子」と呼ばれるもので、表面からはよく見えませんが、実は、全部で4つの土器が入れ子になっています。

まず、一番大きな土器の中に中型の土器を入れ込みます。その中型の土器の中にさらに小型の土器を入れ込み、

その上にやはり同じくらいの中型の土器を入れるといった感じで、とても上手に入れ込んでいます。このように4つも土器を入れ子にするのは全国的に見ても、大変珍しいことです。

縄文時代の土器埋納に、死んだ小児を土器に入れる例があります。この入れ子は、中に入っている小さな土器を子どもに見立てて「生命の再生」の祈りを込めたのかもしれません。

入れ子の土器は、喜入地域の帖地遺跡から出土したものです。

(ふるさと考古歴史館　古澤　生)

わが町上空



「中心市街地」

今年4月、錦江湾と桜島を間近に臨むウォーターフロントに商業施設「ドルフィンポート」が開業しました。

ウォーターフロントの一角には、NHK鹿児島放送局が来年12月の開局を目指して、新しい放送会館を建設中です。

写真左方に見える鹿児島駅周辺では、現在、鉄道の高架化を含めた新たなまちづくりの検討が進められています。刻々と変化を続ける中心市街地。一方で、写真中央に行き交う桜島フエリーアーは、昨年、就航70周年を迎えました。雄大な桜島のもと、歴史あるものと新しいものとの調和を保ちながら、鹿児島市は発展を続けています。



市民フォト

鹿児島

NO.101

編集・発行／鹿児島市広報課

鹿児島市山下町11番1号

電話 216-1133

印刷・レイアウト／測上印刷株式会社



R100

この広報誌は、古紙配合率100%の
再生紙を使用しています。